

第一号議案

2022年度活動結果報告

総括的な活動結果

2022年度はコロナ禍3年目でしたが、時間預託活動・奉仕活動共に前年実績を上回りました。ただ、長い自粛の日々で体調を崩された会員が相当数あり、高齢化の進行と相俟って活動提供者の減少が顕著で、この回復・改善が急務です。なお11月に枚方市制施行75周年記念式典で、「天の川クラブ」が永きにわたり市政の発展に貢献したとして表彰を受けました。また1月に枚方市から「クリーンアダプト楠葉地区」の環境美化活動が地域貢献活動で表彰されました。定時総会は3年ぶりに対面にて193名の参加を得て開催出来ました。「秋のイベント」は残念ながら中止としました。

(1) 全世代対応の会員組織へ

- ①「天の川クラブ」ホームページの刷新を図り、情報発信力の強化に努めました。当年度のHP訪問者は月平均800名で、徐々に刷新の効果が出ています。
- ②「天の川クラブ」の「紹介ハンドブック」の内容を更新し、公共施設への配置はもとより、イベントや研修会時に一般市民へ配布し会員増強に努めました。
- ③研修会は一般市民の参加を呼びかけ、3月実施の「スプリングコンサート」では参加者の約40%、また「枚方市生活支援員養成研修」では受講者の80%が一般市民でした。

☆2022年度新入会41名。年度末会員679名。前年比10名の減少でした。

(2) 事業活動推進で安定的拠点運営

- ①「生涯学習情報プラザ」（受託事業）は、講座内容の充実と施設運営の向上を目指し計画に沿って実施しました。
- ②「枚方市生活支援員養成研修」（受託事業）は、6月と11月の2回開催しました。
- ③「生活援助訪問事業ナルクすこやか」（認可事業）は、感染予防に留意して活動し、利用者数・支援員活動数ともに順調な推移で、目標を上回りました。

(3) 会員活動の活性化 「楽しいナルク」「安心のナルク」「感動のナルク」

- ①会員相互扶助活動は利用・提供の双方の活動を進め、ほぼ計画を達成しました。「ひとり暮らし支援」も継続し、活動は「家事・介助支援」に統合しました。
- ②「地区会」はコロナ禍のため延期するなど開催に苦慮する地区もありましたが、世話人代表・世話人の努力で全ての地区にて開催しました。「地区世話人代表者交流会」を2月に実施。各地区の活動や課題について情報共有を図りました。
- ③会員対象の「意向調査」はコロナ禍の時期を避け次年度に持ち越します。

(4) 地域社会への貢献活動

ナルクの設立を記念する環境美化活動「ナルクデー2022」は、楠葉会場と枚方会場で同時開催。計122名の参加によるパワーに満ちた活動でした。

1. 時間預託活動

近藤秀子・角山正男・一宮順世

会員相互扶助活動は、会員が地域で安心して生活できるように取り組みました。又、コロナ感染対策には十分配慮して対応しました。その結果、時間預託活動は計画に対し実績は98%となりました。

(1) 会員相互扶助活動

①家事介助支援はコロナ禍で活動中止となり、一度提供活動から離れると再開時に一歩を踏み出すことに大変なエネルギーを要しました。また地区の利用者に偏りがあり一部提供者に負担がかかりました。同時に利用目的の入会希望者に対する事前のコーディネートの重要性を痛感しました。新規会員が積極的に活動に関わる事例も数件あり実績は111%でした

②庭・植木の手入れは、計画に対し実績は100%となりました。

高齢化等のため提供者の確保が困難となっていることから、秋季に利用が集中することに鑑み「金木犀」の剪定を初夏にずらすことで提供の分散を試行しました。

ますます剪定活動に女性のパワーが必須となってきました。

一方、松の剪定及び多数の提供者が必要な利用希望には提供者確保が難しく、要望に対応できないことが現実となってきました。

③ハウスヘルパーは、計画に対し実績は103%となりました。

事務所持ち込みの「包丁研ぎ」の利用は堅調に推移しました。

④送迎は、計画に対し実績は93%となりましたが、前年対比では100%となりました。送迎利用を目的とした新規入会者が多くなっています。

⑤パソコン指導は、計画に対し実績は64%となりました。

コロナ感染に強い不安をもつ利用者が多く提供依頼が減少しました。

パソコンサポート時にスマホサポートの要望は増加傾向にあります。

Zoom勉強会は、次年度に持ち越すこととしました。

(2) 福祉施設活動

福祉施設活動を通して地域社会に貢献し、会員自身の生きがいにもつながる大切な活動と捉えて実施しています。

今年度も、コロナ禍のため施設は一部を除き活動休止の状態が続きましたが後半より、各施設の活動に次のような変化がありました。

「エイジフリー・ライフ香里園」(サンセール香里園から改称)は、お茶会でのスタッフの着付けの他、2月より入居者と交流する書道・お花・絵手紙が開始されました。

「エイジフリー・ライフ星が丘」は今年度も1年間、外部から施設への入所が出来ず、活動は全面的に休止が続きました。

そうした中で、「デイサービスえみふる」は施設の要望で自粛期間中も安全対策をして活動し、計画の200%以上の活動でした。しかし通所者の減少で1月より活動が休止となりました。

2. 奉仕活動

辻 洋子・一宮順世

奉仕活動は、ボランティア活動の基本であり、地域社会への貢献という大切な任務を担っていますが、コロナ禍の中活動の場が制限され、ナルク外部、内部活動を含めて奉仕活動合計は計画比94%でともに計画未達となりました。

(1) 福祉施設支援活動

今年度は、コロナ禍のため、1年間施設からの要請が少なく、活動は低調でした。その中で「エバーライフ御殿山」には、入居者向けに水切り絵作品を殆ど仕上げた状態にして届け、仕上げを楽しんでもらいました。

また、入居者に寄り添いたいとの思いから、同好会の協力により他の施設に、絵手紙を届け喜んでいただきました。

(2) 子育て支援活動

「子ども安全見守り隊」は、見守り活動者の熱意によって計画を大幅に上回りました。しかし校区の一員として活動の意義が理解されている割には、活動者の少ないのが現状です。

子育て関連施設は活動に制限され目標達成は出来ませんでした。「ファミリーポート」の屋外活動の花壇チームは、草刈り・園庭・菜園管理の活動を継続してきた結果子育て支援活動の目標を達成しました。

(3) 環境美化活動

環境美化活動は、コロナ禍の中でも屋外活動であり感染リスクも低いため順調に活動しました。また新会員の参加者が増えています。また、枚方市より「クリーンアダプト（楠葉中央公園）」の永年の活動に対してボランティア活動の表彰を受けました。

「ナルクデー2022」を5月に総勢122名の参加で実施しました。開会式（楠葉会場）には伏見枚方市長、枚方会場にはナルク本部神野会長が激励に來られ地域貢献活動として環境美化活動が盛大に行われました。

10月に予定されていた「天の川クリーン&ウォーク」は中止となりました。

(4) その他外部活動

①長年活動を継続している「赤い羽根街頭募金」活動は3年ぶりに実施され9名参加しました。

②「青色防犯パトロール」は、コロナ禍での活動自粛の影響もありながら活動を継続実施しました。

・永年協力していただいた会員も高齢化のため活動が難しい現状です。
運転者の不足が課題点です。

3. 事業活動

佐野友保・近藤秀子・和田亮吉

(1) 事業A：当拠点が対応できる案件はありませんでした。

(2) 事業B：生涯学習情報プラザ（受託事業）

文化生涯学習課と緊密な連携により、下記の内容を主体に取り組みました。

- ①コロナ対策は、施設利用後の消毒・清掃を都度丁寧に実施し施設からの感染者を出すことなく遂行できました。施設利用件数648件（前年度441件）で47%向上しました。
- ②ミニ体験講座内容の向上策では、スタッフ全員より改善案を募り受講者の要望や基本ソフトの変化に対応した講座内容の変更、受講率向上案を検討、可能なものから実施しました。
ミニ体験講座受講者 1,750名（前年度 1,578名）10%増加になりました。
- ③文化生涯学習課に協力をお願いして、生涯学習情報プラザのホームページに講座案内チラシを掲載することが出来ました。
- (3) 事業C：枚方市生活支援員養成研修（受託事業）
2022年度は6月、11月、2回実施し修了者は19名でした。
受講者は年々減少しており、対策として募集チラシをイラスト入りの明るいものに刷新した結果、受講者の増加にはつながりませんでしたが傾向として会員外の若い方の受講が顕著になってきています。
6年前から使用の枚方市作成の研修テキストについて、内容が現状にそぐわなくなってきたり、その内容の修正見直しを市に続けて要請していきます。
- (4) 事業D：生活援助訪問事業「ナルクすこやか」（認可事業）
今年度もコロナウイルス感染は蔓延したままであったが、感染対策を実施しながら活動を行う事ができました。また、支援員の熟練度が増したことにより数人の利用者への支援が出来るようになり、実績は計画を上回る事が出来ました。

4. 同好会活動

向井範雄

新型コロナウイルスもありましたが、このような状況下でほとんどの同好会が活発に活動され、なかでも「健康麻雀」のように、毎月30名を超える同好会もあり、全体として2,928名が参加され、計画の2,000名は大幅に超えました。

5. 会員活動促進

向井範雄・西川昌子

会員活動促進は、会員相互の連携と親睦を深めるお互いに顔の見える活動を目指しました。コロナ禍ではありましたが、一般市民への呼びかけなど前年より活発化しつつあり次に繋がる活動を推進することが出来ました。

(1) 地区会

- ・地区会は、14回実施され、参加者313名で前年の168名より増加しました。（1回当りの参加者22.5名）
- ・地区世話人代表者交流会2月16日実施24名参加
5年振りに実施、忌憚のない意見交換が行われ今後の地区会活動の活性化に繋がる有意義な交流会となりました。

(2) 会員研修

会員研修は、次の研修を実施しました。

①ノルディック ポール エクササイズ

実施日：7月14日(木) 参加人員42名

健康づくりの一環として好評でした。

②コーディネーター養成講座

実施日：11月9日(水) 受講者36名(4拠点合同実施)

(寝屋川拠点5名、四条畷拠点6名、交野拠点2名、枚方拠点23名)

③スプリングコンサート

実施日：3月14日(火) 参加者104名(内一般市民38名)

一般市民にも好評でナルク「天の川クラブ」のPRになりました。

又、アンケート結果について今後の参考として活用します。

(3) イベント

①第28回定時総会：6月2日(木) 193名参加

(枚方市総合文化芸術センター小ホールで実施)

②秋のイベントはコロナ禍のため中止しました。

(4) 活動区分別交流会

各分野の活動会員が活動推進に際して課題の共有化、情報交換を図り、活動のレベルアップの為に取り組み、延べ19回実施しました。(参加者227名)

(前年実績6回66名)

6. 事務局活動

岡本年昭

①コロナ禍の影響により環境変化が著しい中でしたが、事務局業務は停滞することなく入力やその関連業務、会報手配り準備、事務局当番等適切に対応しました。

特に会員の高齢化や活動者減少を踏まえ「天の川クラブ」活動全般について、会員間の連携を深め 活動窓口としての役割を適切に対応しました。

②会員管理システムのN1からN2への移行は、関係者の尽力と協力により活動の区分コード変更等的確に対応して大きな混乱もなく移行することが出来ました。

③事務局要員の補充拡充に努めました。(事務局当番2名の補充)

7. 広報・渉外

向井範雄

①会報「天の川」について活動の情報量が少ない中、年間を通じて欠かすことなく必要な情報をタイムリーに掲載し、広報紙として会員全員に伝わる紙面づくりに努めました。

②毎月、ナルク本部会報と会報「天の川」を公共施設に配布、ひらかた市民活動支援センター発行の「ひらせんナビ」にナルク記事を掲載してPRに努めました。

③ホームページの内容を更新し、見やすくタイムリーな更新、役立つ情報の掲載等、ナルクのイメージ向上に取り組みました。